

令和 4 年 6 月 28 日現在

機関番号：32604

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2021

課題番号：17K04151

研究課題名（和文）日本の出産文化の歴史社会学的研究 リプロダクティブヘルスと助産所の機能を中心に

研究課題名（英文）Historical Sociology of Childbirth and its Culture in Japan-Focusing on Role of Maternal Home by Midwives from the Viewpoint of Reproductive Health

研究代表者

大出 春江（Ohde, Harue）

大妻女子大学・人間関係学部・教授

研究者番号：50194220

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は2017年度に社会学、人類学、民俗学の研究者と助産専門家とが協力して研究を開始したものである。産婆は戦前日本において助産だけでなく地域の公衆衛生の担い手となっていた歴史をもつ。これらを踏まえ、本研究は、助産職者の残してきた史料に焦点をあて、リプロダクティブ・ヘルスを歴史的かつ実証的に研究することを目的とした。

日本助産師会を通じて全国の助産師会に依頼をし、長期にわたり保管されてきた史料のデジタル化を呼びかけた。本科研調査により大阪府、京都府を含む2府5県の産婆会史料を集めこれをデジタル化し、その研究成果を2回のシンポジウムと2つの出版物にまとめ、広く公開することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

収集した史料をもとに、日本の戦前期における出産の社会的環境を実証的に明らかにすることができた。それらは以下の通りである。

1)近代日本の社会事業が児童保護の名の下に妊婦を保護し、貧困女性を収容して助産する産院という形式が登場したこと、その施設化が戦後の出産の形式につながったこと 2)貧困女性の出産援助を産婆会が組織として担った具体例を京都市を事例として実証的に示したこと 3)大日本産婆会大会誌から1927年～1943年まで記録に基づく大会推移を明らかにし、第二次世界大戦下の産婆が戦時体制に組み込まれた結果、17年来続いた産婆法（産師法）制定運動を手放した過程を示すことができた。

研究成果の概要（英文）：This research was initiated in 2017 in collaboration with researchers in sociology, anthropology, and folklore, as well as midwifery specialists. Midwives had a history of being responsible not only for midwifery but also for local public health in prewar Japan. Based on these facts, this research focused on the historical documents left behind by midwives and attempts to consider reproductive health historically and empirically. Since midwives have been prohibited from practicing medicine legally, they have had orientation to induce the power of women's bodies in childbirth, which led to an affinity with reproductive health.

Through this project, we have collected and digitized the archives of midwives' associations in 7 prefectures, including Osaka and Kyoto, and reported the results to make some of them widely available to the public through two symposiums, and publications.

研究分野：社会学

キーワード：産婆 出産 助産 産院 医療化 産師法 女性の人権 リプロダクティブ・ヘルス

## 1. 研究開始当初の背景

日本の近代助産の歴史に対する関心は助産学専門家によるもののほかに、社会科学系の研究者によるものもありながら、それぞれが各自の関心に基づいて歴史資料を扱う傾向にあった。

本研究組織は社会学を専門とする研究代表者のほかに文化人類学、民俗学の立場から出産の歴史に取り組んできた研究者に加え、日本助産師会と共同する形で研究作業を実施することを当初から意図した。それにより都道府県の助産師会とのつながりが生まれ史料の所在が確認された。各自治体の助産師会がすべて助産師会館をもつわけではないが、会館を所有する助産師会の場合、長年、史料を保管してきた経緯があり、それらの史料の閲覧と長期貸し出しが許可されるに至った。特に大阪府と京都府からは本研究プロジェクトの重要な核となる史料が提供され、これらの史料のデジタル化作業が可能になった。

## 2. 研究の目的

本研究は産む当事者の視点に立つ出産のあり方を考察することを旨とし、助産師(産婆)を核とした出産の文化を歴史的社会的文脈において明らかにすることを目的としている。

具体的には、出産をめぐる社会的環境はどのように形成され、資源が活用され維持されてきたのか、それを背景とした助産の実践を歴史社会学、文化人類学、そして民俗学の視点から明らかにすることを目的とした。この作業を通じて、これらの史料を研究者と助産職者が共有し、日本における助産の文化と歴史が地域で果たした役割を明らかにし次世代に継承できる形にすることをめざした。1960年代までの日本では、助産師(産婆)を核とした出産文化が地域に根づき、女性の出産・育児を支え、貧困や虐待から母子を守る役割を果たしていた。出産の医療化が進行し、出産を支える文化は消滅しつつある。戦前の産婆会史料を所有していた会館も少数になり助産所にかかわる記録の多くが廃棄される運命にある。本研究では助産師会の協力を得て、会館の所蔵する史料の整理とデジタル化を行うとともに、学際的視点から助産職の固有性を社会的文脈に位置づけ、実証的な研究に基づいたリプロダクティブ・ヘルス/ライツを構想することをめざした。

## 3. 研究の方法

地域の出産に深くかかわってきた助産師(産婆)の所有する史料情報を確認すること、把握した史料の整理とデジタル化を進めること、研究組織メンバーおよび助産師会館と史料の共有をはかる。それをもとに各自の研究をおこなう、という方法をとった。

本研究の目的と意義を研究代表者が作成し、日本助産師会を通じて各自治体の助産師会に史料に関する情報提供の依頼文書を送り、史料の有無をアンケート方式で回答してもらう方法をとった。その結果、2府5県の助産師会館の所蔵史料に関する情報を得た。このなかにはアンケートでの回答はなかったが、研究組織メンバーが個別に直接、依頼することで回答のあった助産師会も含まれている。日本助産師会だけでなく、各自治体の助産師会と長期にわたる信頼関係を築いていた研究協力者なしには史料情報を得てデジタル化することには至らなかった。

## 4. 研究の成果

情報提供を受けた史料の整理とデジタル化を進め、地域における助産所という場がもつ意味と助産師(産婆)が果たした役割にかかわる文書記録を整理した。研究組織メンバーはこれをジェンダーの視点、出産の医療化論、リプロダクティブ・ヘルス/ライツの観点からそれぞれの領域を研究対象として定め実証的な研究を進めた。

本研究は文化史料の保存の観点からも極めて重要な意義をもつ研究となった。なぜなら、日本では戦前期から 1960 年代までの出産の現場は産婆・助産婦の存在が欠かせなかったにもかかわらず、1970 年代以降は見えない存在となり、産婆会・助産婦会として保管してきた史料は全国各地にバラバラに保管されるか、会長宅で保管されていた文書史料が会長交代時に整理され廃棄されることがしばしばあったためである。

本研究では助産師会館保管が可能で、かつ戦火を免れたものが調査の対象となった。このうち京都府は 1936(昭和 11)年に第 9 回大日本産婆会大会の開催地となった関係で、この大会記録を中心に数多くの文書史料のデジタル化が可能になった。

大阪府の文書史料のうち戦前のものとしては 大阪市産婆会会報、 堺市産婆会・赤ちゃん審査会写真帖(帳)の保存状態がよくこれらをデジタル化することができた。後者は写真が多用され、1927(昭和 2)年から日米開戦の翌年まで 15 年間継続した写真記録として極めて意義深い史料といえる。

表 1 堺市赤ちゃん審査会の開催概要と写真帖(帳)タイトル一覧

回	出版年	開催日時	開催場所	写真帖(帳)表題
第 1 回	1928	1927年 12月9日～11日	殿馬場 旧市立高等女学校跡	お産と育児の展覧会・乳幼児審査会 記念写真帖
第 2 回	1929	9月21日～22日	堺市材木町 元愛泉女学校	第二回堺市赤ちゃん審査会 記念写真帖
第 3 回	1930			(不明)
第 4 回	1931	10月4日～5日	堺市殿馬場 府立堺高等女学校	第四回堺市赤ちゃん審査会 記念写真帖
第 5 回	1932	10月1日～2日	堺市殿馬場 堺高等愛泉女学校	第五回堺市赤ちゃん審査会 記念写真帖
第 6 回	1933	10月7日～8日	堺市殿馬場 愛泉高等女学校	第六回堺市赤ちゃん審査会 記念写真帖
第 7 回	1935	10月5日～6日	堺市殿馬場 愛泉高等女学校	第七回堺市赤ちゃん審査会 記念写真帳
第 8 回	1936	10月3日～4日	堺市殿馬場 高等愛泉女学校	第八回堺市赤ちゃん審査会 記念写真帳
	1937	「時局により」開催中止		
第 9 回	1938	10月16日～17日	堺市殿馬場 愛泉高等女学校	(不明)
第 10 回	1939	10月7日～8日	堺市殿馬場 愛泉高等女学校	(不明)
第 11 回	1940	10月12日～13日	堺市殿馬場 愛泉高等女学校	紀元二千六百年・第拾壹回堺市赤ちゃん審査会 記念写真帳
第 12 回	1941	10月11日～12日	堺市大浜公会堂	紀元二千六百一年・第拾貳回堺市赤ちゃん審査会 記念写真帳
第 13 回	1942	10月17日	堺市大浜公会堂	大東亜戦争一周年・第拾参回堺市赤ちゃん審査会 記念写真帳

これら 2 府 5 県の産婆会史料を集めこれをデジタル化し、その一部を 2 回のシンポジウム開催(一つはオンライン開催)により、広く公開することができた。このシンポジウムにより、参加者から戦前期の産婆会保管史料情報が寄せられ、2021 年度科研(21H00775)につなげることができた。

さらに各地に保管されていた大日本産婆会の大会報告書(大会誌)をデジタル化し 1929 年～1942 年までを総覧できる形にして限定出版し、協力の得られた機関に配布した。後に『大日本産

産婆会総会並大会誌『総覧』として日本助産師会から3冊1組で出版した。現在、助産学研究者と本研究組織メンバーによる助産の歴史の研究会(事務局 神戸市立看護大学)が2022年から始まっているが、この大会誌総覧がテキストとして用いられている。

2017年度科研費による研究のまとめとして、研究代表者が2017年～2020年に執筆した論文を大幅に加筆修正したものに、科研費調査の一環で収集した写真史料を加え、学術図書としてまとめた。この図書は2021年度科研費助成事業(研究成果公開促進費)(21HP5150)の交付を受け、大阪大学出版会より2022年2月末に出版した。図書は2017年度科研の成果物として日本助産師会および研究にご協力頂いた地域の助産師会に送付した。

宮城県、長野県、鳥取県から受け入れた昭和戦前期～戦後にかけての史料についても、大阪府や京都府と同様にNWEC移管手続きを進めている。収集した史料の目録作成とデータ公開に向けた作業は国立女性教育会館(NWEC)情報課と連携することとなり、一連の作業は2021年度科研(21H00775)に引き継がれた。NWECでは現在、これらの史料を「産婆・助産婦関連データベース」として、現在すでに稼働している「女性デジタルアーカイブシステム」の一つに位置づけ、公開に向けて準備している。

#### <引用文献>

大出春江『赤ちゃん審査会というメディア・イベント - 写真帖が語る近代日本の児童保護と社会事業』大阪大学出版会、2022年、30-52。

松岡悦子『戦前の大日本産婆会の運営と課題についての考察 - 大日本産婆会総会並大会の議案をもとに』『日本助産学会誌』第35巻第2号、101-112。

田間泰子『大正から昭和初期におけるリプロダクションの状況と産婆 - 京都府助産師会史料『産婦助産取扱記録簿』をてがかりに』『女性学研究』28号、大阪府立大学女性学研究センター、37-71。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計15件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 大出 春江	4. 巻 30
2. 論文標題 産師法（産婆法）制定運動の分水嶺 - 1931年法案「第三条」を中心に -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 女性史学（女性史総合研究会）	6. 最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊賀みどり	4. 巻 30
2. 論文標題 占領期の産婆/助産婦再教育とその役割 - 形づくられた現代の病院出産 -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 女性史学（女性史総合研究会）	6. 最初と最後の頁 21-35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松岡悦子	4. 巻 35-2
2. 論文標題 戦前の大日本産婆会の運営と課題についての考察 大日本産婆会総会並大会の議案をもとに	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本助産学会誌	6. 最初と最後の頁 101-112
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3418/jjam.JJAM-2020-0035	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松岡悦子	4. 巻 303
2. 論文標題 「思いがけないお産の民俗」へのコメント 文化人類学の立場から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本民俗学	6. 最初と最後の頁 122-127
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松岡悦子	4. 巻 5
2. 論文標題 母乳・フェミニズム・授乳フォト アメリカと日本の比較より	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 アジア・ジェンダー文化学研究（奈良女子大学アジア・ジェンダー文化学研究センター）	6. 最初と最後の頁 39-51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田間 泰子	4. 巻 28
2. 論文標題 大正から昭和初期におけるリプロダクションの状況と産婆：京都府助産師会史料『貧産婦助産取扱記録簿』をてがかりに	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 女性学研究 Women's Studies Review	6. 最初と最後の頁 37～71
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24729/00017328	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大出 春江	4. 巻 21
2. 論文標題 「健康」「衛生」概念の普及とメディア・イベントとしての赤ちゃん審査会 - 戦前期の2つの写真帖を手がかりに -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 大妻女子大学人間関係学部紀要『人間関係学研究』	6. 最初と最後の頁 55-67
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 大出 春江	4. 巻 73巻 1号
2. 論文標題 産婆法 / 産師法と助産師法 - その法制度化の審議過程と不成立の要因	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 助産師（日本助産師会出版）	6. 最初と最後の頁 46-52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大出 春江	4. 巻 20号
2. 論文標題 近代日本の産院の系譜と社会事業	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 大妻女子大学人間関係学部紀要『人間関係学研究』	6. 最初と最後の頁 119-130
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松岡悦子	4. 巻 65-2
2. 論文標題 リプロダクションとアジアの近代化	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 家政学研究	6. 最初と最後の頁 5-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松岡悦子、諸昭喜、神谷撰子	4. 巻 72-10
2. 論文標題 アジアの新しい風 インドネシア、韓国、中国の自然分娩の動き	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 助産雑誌	6. 最初と最後の頁 790 - 795
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松岡悦子	4. 巻 1・2月号
2. 論文標題 韓国における産後ケア	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 臨床助産ケア	6. 最初と最後の頁 115-119
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大出 春江	4. 巻 Vol. 71 No. 4
2. 論文標題 産婆・助産婦の歴史資料の電子化とその意義	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『助産師』	6. 最初と最後の頁 48-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大出 春江	4. 巻 No.19
2. 論文標題 児童保護運動が健民運動に変わるまで：赤ちゃん審査会とその機能を通じて	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 大妻女子大学人間関係学部紀要『人間関係学研究』	6. 最初と最後の頁 21-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 岡本 喜代子	4. 巻 Vol. 71 No. 4
2. 論文標題 「柘植アイ賞」の創設の意義と柘植アイ先生の生涯	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『助産師』	6. 最初と最後の頁 46-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計32件(うち招待講演 8件/うち国際学会 3件)

1. 発表者名 大出春江
2. 発表標題 1920年代の赤ちゃん審査会と都市の家族
3. 学会等名 比較家族史学会第70回春季研究大会シンポジウム(招待講演)
4. 発表年 2022年



1. 発表者名 大出春江
2. 発表標題 助産師のアイデンティティの源流を探る
3. 学会等名 第35回日本助産学会学術集会（オンライン）（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松岡悦子
2. 発表標題 Impact of MDGs on Reproductive Health of Women in Rural Bangladesh
3. 学会等名 IUAES 2020, Croatia（オンライン）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 伊賀みどり
2. 発表標題 病院出産への転換点 戦後GHQ占領期に何が変わったか
3. 学会等名 日本民俗学会 第72回年会（オンライン）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大出春江
2. 発表標題 出産と日本の近代化 産師法（産婆法）制定運動はなぜ起こったか
3. 学会等名 日本助産師会近畿地区教育研修会（京都府立医科大学）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大出春江
2. 発表標題 大日本産婆会の成立と産婆法・産師法制定運動
3. 学会等名 『産婆・助産婦の近代を掘り起こすー京都府・大阪府助産師会保存資料を中心に』（大阪府立大学なんば1-site）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大出春江
2. 発表標題 1930年代日本における産師法（産婆法）案の変遷 - 歴史社会的要因に着目して
3. 学会等名 第34回日本助産学会学術集会（新潟朱鷺メッセ Web学術集会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松岡悦子
2. 発表標題 大日本産婆会総会並大会の議案が語りかけること
3. 学会等名 『産婆・助産婦の近代を掘り起こすー京都府・大阪府助産師会保存資料を中心に』（大阪府立大学なんば1-site）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 田間泰子
2. 発表標題 戦前京都市における「貧産婦助産取扱記録」から
3. 学会等名 『産婆・助産婦の近代を掘り起こすー京都府・大阪府助産師会保存資料を中心に』（大阪府立大学なんば1-site）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 岡本喜代子
2. 発表標題 第9回大日本産婆会大会（京都府）の開催概要に関する報告
3. 学会等名 『産婆・助産婦の近代を掘り起こすー京都府・大阪府助産師会保存資料を中心に』（大阪府立大学なんば1-site）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 伊賀みどり
2. 発表標題 出産文化の戦後 - 「産婆さん」のライフヒストリー研究 -
3. 学会等名 日本民俗学会 第71回年会（筑波大学春日キャンパス）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊賀みどり
2. 発表標題 占領期の産婆/助産婦再教育とその役割
3. 学会等名 『産婆・助産婦の近代を掘り起こすー京都府・大阪府助産師会保存資料を中心に』（大阪府立大学なんば1-site）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大出春江
2. 発表標題 なぜ「助産」は見えなくなったのか 産婆・助産婦・助産師をめぐる社会統制
3. 学会等名 出産ケア政策会議・Birth for the Future(BFF)研究会主催シンポジウム（日本赤十字看護大学）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大出春江
2. 発表標題 産院の近代と日本の社会事業 大正期東京と大阪を中心に
3. 学会等名 第33回 日本助産学会学術集会（福岡国際会議場）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松岡悦子
2. 発表標題 出産に見られる身体の諸相 - 医療・資本主義・女性の主体性
3. 学会等名 国際日本文化研究センター 第5回研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大出春江
2. 発表標題 赤ちゃん審査会が果たした役割と変容 児童保護運動が健民運動に変わるまで
3. 学会等名 第91回 日本社会学会大会（甲南大学）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松岡悦子
2. 発表標題 ラウンドテーブル・バングラデシュ農村におけるリプロダクティブ・ヘルス改善の道筋を探る
3. 学会等名 国際ジェンダー学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松岡悦子
2. 発表標題 Is it a Positive Birth Experience: Changing Health Behavior of Women ' Seminar on " Empowerment and Reproductive Health of Women in Rural Bangladesh: Based on a Collaborative Research with NGO
3. 学会等名 Department of Anthropology, Dhaka University
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松岡悦子
2. 発表標題 日本文化の反映としての産科医療 - クリニックでの出産を中心として
3. 学会等名 全南大学校アジア文化研究所・韓国日本文化学会聯合 国際学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松岡悦子
2. 発表標題 Public Lecture " Clinic Births as Representation of Japanese Culture "
3. 学会等名 Program Studi Jepang FIB, Universitas Indonesia
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊賀みどり
2. 発表標題 助産院出産とジェンダー 「産婆」の夫からの聞き書き
3. 学会等名 日本民俗学会 第70回年会 (駒澤大学)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 伊賀みどり
2. 発表標題 開業助産師に関する資料の保存とその意義
3. 学会等名 第33回 日本助産学会学術集会（福岡国際会議場）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大出春江
2. 発表標題 産婆と産院の歴史と現代の出産
3. 学会等名 市民アーカイブ多摩主催『緑陰トーク』（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 大出春江
2. 発表標題 産婆の歴史への接近 - 社会学の視点から
3. 学会等名 『母子と助産師の日イベント 産婆・助産婦の歴史への接近』村松志保子助産師顕彰会主催 高忍日賣神社（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松岡悦子
2. 発表標題 戦前の産婆たち - 柘植アイ、岩崎なお
3. 学会等名 東京都助産師会館財団（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松岡悦子
2. 発表標題 産婆の歴史への接近 - 文化人類学の視点から
3. 学会等名 『母子と助産師の日イベント 産婆・助産婦の歴史への接近』 村松志保子助産師顕彰会主催 高忍日賣神社（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 伊賀みどり
2. 発表標題 産婆の歴史への接近 - 民俗学の視点から
3. 学会等名 『母子と助産師の日イベント 産婆・助産婦の歴史への接近』 村松志保子助産師顕彰会主催 高忍日賣神社（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松岡悦子
2. 発表標題 Emphasis on Postpartum Period in Japan. Panel titled "Growing Attention to Postnatal Period in East Asia."
3. 学会等名 The East Asian Anthropological Association 14-16 October 2017, The Chinese University of Hong Kong. (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松岡悦子
2. 発表標題 グローバルヘルスとアジアの出産
3. 学会等名 全南大学校日本文化研究センター 第12回国際学術シンポジウム(韓国) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松岡悦子
2. 発表標題 地域に根付く伝統や風習が健康格差に与える影響 - リプロダクティブ・ヘルスを例に -
3. 学会等名 『グローバルヘルス合同大会』東京大学医学部
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松岡悦子
2. 発表標題 アジアの出産を見る - ジェンダーの視点から
3. 学会等名 『東北並びに女性視角研究検討会』大連外国語大学11教B区301室、中国（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 伊賀みどり
2. 発表標題 出産の民俗学 - 現代の助産院の事例より -
3. 学会等名 日本民俗学会第69回年会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計13件

1. 著者名 大出春江	4. 発行年 2022年
2. 出版社 大阪大学出版会	5. 総ページ数 363
3. 書名 赤ちゃん審査会というメディア・イベント：写真帖が語る近代日本の児童保護と社会事業	



1. 著者名 田間 泰子 (岩間暁子・大和礼子・田間泰子共著)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 29-34 (248ページのうち)
3. 書名 「『近代家族』の成立」『問いからはじめる家族社会学〔改訂版〕』	

1. 著者名 産婆助産婦歴史研究会・研究代表大出春江	4. 発行年 2021年
2. 出版社 日本助産師会出版	5. 総ページ数 1042
3. 書名 大日本産婆会総会並大会誌 (三分冊)	

1. 著者名 産婆助産婦歴史研究会・研究代表大出春江	4. 発行年 2020年
2. 出版社 産婆・助産婦歴史研究会 (大妻女子大学)	5. 総ページ数 1042
3. 書名 大日本産婆会総会並大会誌 第一分冊 (昭和4年~9年)、第二分冊 (昭和10年~13年)、第三分冊 (昭和14年~18年)	

1. 著者名 田間泰子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 放送大学教育振興会	5. 総ページ数 141-156
3. 書名 「生殖と家族」『リスク社会の家族変動』	

1. 著者名 松岡悦子 (Robbie Davis-Floyd and Melissa Cheyney eds)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Waveland Press	5. 総ページ数 89-128
3. 書名 Comparing Childbirth in Brazil and Japan: Social Hierarchies, Cultural Values, and the Meaning of Place. In "Birth in Eight Cultures"	

1. 著者名 田間泰子 (小島宏・廣嶋清志編)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 日本経済評論社	5. 総ページ数 149-173 (315ページ)
3. 書名 「戦後本土の『人口政策』」 『人口政策の比較史 (家族研究の最前線) - せめぎあう家族と行政』	

1. 著者名 大出春江	4. 発行年 2018年
2. 出版社 青弓社	5. 総ページ数 332
3. 書名 産婆と産院の日本近代	

1. 著者名 松岡悦子 (日本家政学会編)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 80-81
3. 書名 現代家族を読み解く12章	

1. 著者名 松岡悦子 (全南大学校日本文化研究センター編)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 民俗院	5. 総ページ数 87-107
3. 書名 日本文化の現場と現在	

1. 著者名 松岡 悦子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Waveland Press	5. 総ページ数 246-249
3. 書名 Tomoko: A Postmodern Japanese Midwife. In Ways of Knowing about Birth. Selected writings by Robbie Davis-Floyd and colleagues.	

1. 著者名 松岡 悦子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 79-81
3. 書名 「コラム グリーフケアとしての通過儀礼」 『グリーフケアを身近に - 大切な子どもを失った悲しみを抱いて』	

1. 著者名 伊賀みどり	4. 発行年 2018年
2. 出版社 国立歴史民俗博物館	5. 総ページ数 208
3. 書名 『助産院・助産師資料目録』国立歴史民俗博物館資料目録[12]	

〔産業財産権〕

〔その他〕

2020年2月29日開催シンポジウムのために小冊子を限定部数(200部)作成。  
 タイトル：『産婆・助産婦の近代を掘り起こす - 京都府・大阪府助産師会保存資料を中心に』（総ページ数は40ページ）  
 大阪府立大学なんばI-siteでは報告に関連したパネルを会場に展示した。パネルに展示した京都府や大阪府の文書や写真史料のタイトルが記号番号と共に巻末に掲載されている。  
 コロナ禍により3月15日大妻女子大学(千代田校)開催は中止となり、代わりに同年9月5日オンラインで開催し海外からの参加も含め153名の参加者を得て実施した。

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	松岡 悦子  (Matsuoka Etsuko)  (10183948)	奈良女子大学・生活環境科学系・教授   (14602)	
研究分担者	田間 泰子  (Tama Yasuko)  (00222125)	大阪府立大学・人間社会システム科学研究科・教授   (24403)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	岡本 喜代子  (Okamoto Kiyoko)	財団法人 東京都助産師会館・理事長	
研究協力者	伊賀 みどり  (Iga Midori)	帝京平成大学・非常勤講師	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------